

船主・船舶管理会社・傭船者向け*

船舶IoTデータ 利活用

に関するセミナー

本セミナーでは、船舶IoTデータ利活用の更なる推進に向けた最新情報として、現在提供されているビッグデータやIoTを活用した運航系・機関係ソリューション、IoTサービスを利用するための共通インフラとなる船陸通信及び船上データ収集装置、及び船社におけるデータ利活用の事例について、多数の関係各社より講演を行います。また、新スマートナビゲーションシステム研究会からは関連技術の国際標準化（ISO化）に向けた取り組み、ShipDCからは船舶IoTデータ利活用基盤「IoTオープンプラットフォーム」を紹介します。

申込方法：下記URLのHPよりお申し込み下さい。

http://www.shipdatacenter.com/loS_seminar.html



受付開始：9月25日(火)

皆さまのご来場をお待ちしています。

※会場の都合により船主・船舶管理会社・傭船者に参加を限定させていただきます。

- | | | |
|---------------|--|--|
| 1
東京
会場 | 開催日時：2018年10月17日(水) 13:30～17:30 (12:00 受付開始)
会場：都道府県会館 (東京都千代田区平河町 2-6-3 都道府県会館 4 階)
http://www.tkai.jp/information/tabid/84/Default.aspx
定員：140名 ※開演前や休憩時間に見学頂ける船用工業や ShipDC 等の展示 / デモがございます。(東京会場のみ) | |
| 2
大阪
会場 | 開催日時：2018年10月22日(月) 13:30～17:30 (13:00 受付開始)
会場：大阪東京海上日動ビル (大阪市中央区城見 2-2-53)
http://www.saiyou.tokiomarine-nichido.co.jp/information/osaka_map.html
定員：140名 | |
| 3
今治
会場 | 開催日時：2018年10月25日(木) 13:30～17:30 (13:00 受付開始)
会場：今治国際ホテル (愛媛県今治市旭町 2-3-4)
https://www.imabari-kokusai-hotel.co.jp/access/
定員：140名 | |

主催：株式会社シップデータセンター／一般社団法人日本船用工業会 新スマートナビゲーションシステム研究会
協力：一般社団法人日本船主協会

問合せ先：株式会社シップデータセンター IoT-OP コンソーシアム事務局 (担当：森谷・権藤)

TEL: **03-5226-2261** e-mail: consortium@shipdatacenter.com

講演内容のご紹介は裏面へ→



オープニング
Opening

一般社団法人日本船用工業会 会長（大洋電機株式会社 代表取締役社長） 山田 信三 氏

講演 1 関連する技術の国際標準化（ISO化）に向けた取り組み

「日本発の船舶 IoT に関連する新たな国際標準規格の紹介」



一般社団法人日本船用工業会
新スマートナビゲーションシステム研究会
座長
(株式会社 MTI)

安藤 英幸 氏



50社が参加した「新スマートナビゲーションシステム研究会」にて、船内の異なる機器に係る情報統合を可能にする船内・船陸間情報インフラを世界に先駆けて構築するため作成した国際規格案が、この度 ISO 規格化されることが決定しました。本規格の制定により、海事分野でのデータ活用が促進されることが期待されます。本講演ではデータを取得し易い船舶に向けた標準技術の価値を紹介します。

<http://www.jsmea.or.jp/ssap/jp/>

講演 2 運航系ソリューション

「船上データの収集と活用事例」



株式会社三井造船昭島研究所
事業統括部
事業創生担当部長

二又 浩文 氏



当社では、14年前、船陸間通信のブロード化をにらみ、それまでに保有していた官公庁船向け船内 LAN システムの技術を活用して、株式会社商船三井殿と商船向け汎用パッケージ Fleet Monitor を開発、市場投入しました。講演では、この Fleet Monitor の主として陸上側のデータ閲覧機能と活用事例の紹介とともにその他の製品ラインナップを説明します。

<https://www.mes.co.jp/business/infra/it/detail183.html>

講演 3 機関係ソリューション

「CMAXS LC-A/e-GICSX による価値創造と今後について」



株式会社ディーゼルユナイテッド
取締役ソリューション事業室長

藤井 幹 氏



CMAXS LC-A/e-GICSX は、高度な自動異常検知・自動診断技術を基とした統合プラットフォームです。参画メーカー協働で運用され、本システムのみで船隊全体の把握が可能です。この先進的実用的な取り組みは国際的な賞を受賞するなど高い評価を受けています。これにより生み出される価値と今後の取り組みについて紹介します。

<http://www.ihl.co.jp/du/>

講演 4 船陸通信および船上データ収集装置の紹介

「船陸通信およびオープンプラットフォームによる海事 IT への貢献」



古野電気株式会社
船用機器事業部
ICT エンジニアリング部
営業課長

森 進 氏



古野電気では、衛星通信事業を通じて培った船陸および船内ネットワーク構築技術を活かし、IoT サービス基盤、FOP(Furuno Open Platform) をご提供します。FOP は、船舶の多様なシステムからデータを収集し、ShipDC と連携して陸上システムへデータを届ける役割を担います。本講演では、海事産業におけるビッグデータ活用における FOP の位置づけと、導入のポイントをご紹介します。

<https://www.furuno.co.jp/>

講演 5 船舶 IoT 利活用基盤 loS-OP (Internet of Ships Open Platform) の取り組み

「船舶 IoT 利活用基盤 loS-OP(Internet of Ships Open Platform) の取り組み」



株式会社シップデータセンター
代表取締役社長

池田 靖弘



運航効率や機器保全などデータを活用したシステムが数多く提供されていますが、それらの機能ごとに特化・専有することなく関係者が互いに協力し、データを活用した価値を共創することでより良いサービスに昇華させることが可能と考えています。本講演では世界に先駆けたシップデータセンターの取り組みをご紹介します。

<http://www.shipdatacenter.com/>

講演 6 船社におけるデータ利活用の紹介

「日本郵船における機関係 Big Data の収集とその活用」



日本郵船株式会社
海務グループ
ビッグデータ活用チーム
チーム長 機関長

山田 省吾 氏



日本郵船と MTI では様々な研究開発を行っていますが、その中での Data 活用との関係性の深い、SIMS (Ship Information Management System) による運転 Data (Process Data, Event Data) に自動収集とその活用方法とその事例紹介、画像 Data の取得と運転 Data との解析、MO Check の電子化による手動取得 Data の活用について紹介します。

<https://www.nyk.com/>

講演 7 環境規制の動向

「船舶 MRV 規制の概要と日本海事協会関連サービスの紹介」



一般財団法人日本海事協会
船舶管理システム部
技師

渡邊 心平 氏



日本海事協会では、船舶からの CO2 排出量報告を求める EU MRV 並びに IMO DCS 規則に関する認証サービスと、各社の規則適合をサポートするソフトウェア「ClassNK MRV Portal」を提供している。本講演では、規則及び認証の概要と、本ソフトウェアによる本船レポート管理から認証取得までの方法を紹介します。

<http://www.classnk.or.jp/hp/ja/authentication/eumrv/>



クロージング
Closing

loS-OP コンソーシアム 副議長
(ジャパン マリンユナイテッド 株式会社 取締役専務執行役員 商船事業本部長) 佐々木 高幸 氏



オープニング
Opening

IoS-OP コンソーシアム 議長 (株式会社商船三井 専務執行役員 技術革新本部長) 川越 美一 氏

講演 1 関連する技術の国際標準化 (ISO 化) に向けた取り組み

「日本発の船舶 IoT に関連する新たな国際標準規格の紹介」



一般社団法人日本船用工業会
新スマートナビゲーションシステム研究会
座長
(株式会社 MTI)

安藤 英幸 氏



50社が参加した「新スマートナビゲーションシステム研究会」にて、船内の異なる機器に係る情報統合を可能にする船内・船陸間情報インフラを世界に先駆けて構築するため作成した国際規格案が、この度 ISO 規格化されることが決定しました。本規格の制定により、海事分野でのデータ活用が促進されることが期待されます。本講演ではデータを取得し易い船舶に向けた標準技術の価値を紹介します。

<http://www.jsmea.or.jp/ssap/jp/>

講演 2 運航系ソリューション

「船舶運航管理支援システム「SOPass」の紹介」



川崎重工株式会社
船舶海洋カンパニー 技術本部
IoT 事業推進部
部長

大嶺 政樹 氏



川崎重工では、船舶のリアルデータと造船所の持つ船舶工学的知見を組み合わせ、船舶運航管理を効率化するサービス「SOPass」を提供する専門部署を立ち上げました。すでに運用が開始されている SOPass のコンセプトおよび最適航路計算、性能解析等の主要機能に加え、特有の機能である LNG 船向け BOG マネジメント機能についても概要を紹介します。

<https://www.khi.co.jp/>

講演 3 機関係ソリューション

「運転データのデジタルライゼーションによる価値」



株式会社三井 E&S マシナリー
テクノサービス事業部
ディーゼルスサービス部
技術グループ 課長補佐

三宅 宏明 氏



CMAXS e-GICSX/LC-A は、高度な自動異常検知・自動診断技術を基とした統合プラットフォームです。参画メーカ共同で運用され、本システムのみで船隊全体把握が可能です。ここでは運転データのデジタルライゼーションへの取り組みと、そこから生まれる価値を、事例と共に紹介します。

<https://www.mes.co.jp/>

講演 4 船陸通信の紹介

「船陸間通信の最新情報」



日本無線株式会社
マリンシステム事業部
情報ビジネス技術部
船用ネットワークグループ
担当部長

村田 哲也 氏



今後の船陸間通信の発展に重要なインマルサット FX システム、インマルサット FX システムに対応したインマルサット Global Xpress 船舶用衛星通信端末 JUE-60GX ならびスカパー JSAT 社が提供する Ocean BB Plus についてご説明します。これらの機器は NK シップデータセンターの屋上に設置され試験運用が可能になっている機材です。

<https://www.jrc.co.jp/jp/product/lineup/jue60gx/>

講演 5 船上データ収集装置の紹介

「船上データ収集装置の導入事例と Terasaki Marine Information Platform のご紹介」



寺崎電気産業株式会社
システム事業
海洋技術部
主務

森本 峰行 氏



収集したデータを有効活用することで機関プラントの停止回数低減、運航時のエネルギー効率の向上、さらにメンテナンスコストの低減など、幅広く海事産業の発展に貢献できるものと考えています。今回は、船内の離れた場所にある多様な機器のデータ収集、および情報の共有・検知を可能とする船上データ収集装置をご紹介します。

<http://www.terasaki.co.jp/>

講演 6 船舶 IoT 利活用基盤 IoS-OP (Internet of Ships Open Platform) の取り組み

「船舶 IoT 利活用基盤 IoS-OP (Internet of Ships Open Platform) の取り組み」



株式会社シップデータセンター
代表取締役社長

池田 靖弘



運航効率や機器保全などデータを活用したシステムが数多く提供されていますが、それらの機能ごとに特化・専有することなく関係者が互いに協力し、データを活用した価値を共創することでより良いサービスに昇華させることが可能と考えています。本講演では世界に先駆けたシップデータセンターの取り組みをご紹介します。

<http://www.shipdatacenter.com/>

講演 7 船社におけるデータ利活用の紹介

「川崎汽船におけるデータ利活用による本船運航・性能管理」



川崎汽船株式会社
理事
先進技術グループ長

佐々木 丈一 氏



2001 年より取り組んできた当社における本船データの収集とその利活用について、当社開発の「K-IMS」を通じ具体的なその取り組み内容を紹介する。

http://www.kline.co.jp/news/detail/1205228_1454.html

講演 8 環境規制の動向

「船舶 MRV 規制の概要と日本海事協会関連サービスの紹介」



一般財団法人日本海事協会
船舶管理システム部
技師

渡邊 心平 氏



日本海事協会では、船舶からの CO2 排出量報告を求める EU MRV 並びに IMO DCS 規則に関する認証サービスと、各社の規制適合をサポートするソフトウェア「ClassNK MRV Portal」を提供している。本講演では、規則及び認証の概要と、本ソフトウェアによる本船レポート管理から認証取得までの方法を紹介します。

<http://www.classnk.or.jp/hp/ja/authentication/eumrv/>



クロージング
Closing

IoS-OP コンソーシアム 事務局長 (株式会社 MTI 代表取締役社長) 田中 康夫 氏



オープニング
Opening

日本郵船株式会社 ドライバルク輸送本部 ドライバルク輸送品質グループ長 川口 浩氏

講演 1 運航系ソリューション

「データ活用のご利益は？ 運航の見える化と、経済・効率・安全性の改善」



NAPA Japan 株式会社
代表取締役社長

水谷 直樹 氏



近年、センサーや ICT 技術等の発達により、運航のビッグデータや各種データの活用が進んでいます。船主、管理会社、備船社等では、経済・効率・安全性に関わる改善や差別化の費用対効果が実証されつつあります。本講演ではデータ活用事例の紹介と、将来の IoS-OP の可能性について述べたいと思います。

<https://www.napa.fi>

講演 2 機関系ソリューション

「運転データのデジタルイゼーションによる価値」



株式会社三井 E&S マシナリー
テクノサービス事業部
ディーゼルサービス部
技術グループ 課長補佐

三宅 宏明 氏



CMAXS e-GICSS/LC-A は、高度な自動異常検知・自動診断技術を基とした統合プラットフォームです。参画メカ共同で運用され、本システムのみで船隊全体把握が可能です。ここでは運転データのデジタルイゼーションへの取り組みと、そこから生まれる価値を、事例と共に紹介します。

<https://www.mes.co.jp/>

講演 3 船陸通信の紹介

「OceanBB plus サービスのご紹介」



スカパー JSAT 株式会社
グローバル事業本部
モバイル事業部
部長代行

下間 健市 氏



ハイスループット衛星を導入した、次世代型の船舶向けインターネット接続サービスである OceanBB plus は、従来サービスを格段に上回る最大通信速度を実現し、船舶の IoT 化にともなう船陸間データ通信の増大をサポートします。

https://www.jsat.net/jp/satellite/oceanbb_plus/index.html

講演 4 船上データ収集装置の紹介

「データ収集の手間を著しく低減させる、ISO19847/19848 対応 BEMAC 船上 IoT データサーバの紹介」



渦潮電機株式会社
IT イノベーション
主幹

川崎 裕之 氏



新スマートナビゲーションシステム研究会の取組みにて国際標準化された ISO19847/19848 に対応した BEMAC 船上 IoT データサーバを紹介いたします。本装置は、各種船上機器からデータを収集・保存し、Ship DC 並びに船上アプリケーションへ任意に保存データを送信する機能を有しており、堅牢性や安定性に加えて、柔軟性も高く、従来よりもデータ収集が容易になる事が特長となります。

<http://www.bemac-uzushio.com/>

講演 5 関連する技術の国際標準化 (ISO 化) に向けた取り組み

「日本発の船舶 IoT に関連する新たな国際標準規格の紹介」



一般社団法人日本船用工業会
新スマートナビゲーションシステム研究会
座長
(株式会社 MTI)

安藤 英幸 氏



50 社が参加した「新スマートナビゲーションシステム研究会」にて、船内の異なる機器に係る情報統合を可能にする船内・船陸間情報インフラを世界に先駆けて構築するため作成した国際規格案が、この度 ISO 規格化されることが決定しました。本規格の制定により、海事分野でのデータ活用が促進されることが期待されます。本講演ではデータを取得しやすい船舶に向けた標準技術の価値を紹介します。

<http://www.jsmea.or.jp/ssap/jp/>

講演 6 船舶 IoT 利活用基盤 IoS-OP (Internet of Ships Open Platform) の取り組み

「船舶 IoT 利活用基盤 IoS-OP (Internet of Ships Open Platform) の取り組み」



株式会社シップデータセンター
代表取締役社長

池田 靖弘



運航効率や機器保全などデータを活用したシステムが数多く提供されていますが、それらの機能ごとに特化・専有することなく関係者が互いに協力し、データを活用した価値を共創することでより良いサービスに昇華させることが可能と考えています。本講演では世界に先駆けたシップデータセンターの取り組みをご紹介します。

<http://www.shipdatacenter.com/>

講演 7 船社におけるデータ利活用の紹介

「商船三井の運航船データ活用 (データドリブン) および ICT 技術活用事例紹介」



株式会社商船三井
技術革新本部
スマート SHIPPING 推進部
副部長

上原 裕士 氏



IoT やビッグデータなど ICT 関連技術が急速に発展し、船舶・陸上間での利活用の可能性が広がっています。弊社は、ストレスフリーな輸送サービスの実現を目指し、海上の ICT 化を促進するべく多様な要素技術の可能性を TRY & ERROR の取り組みにて検証を実施しております。弊社の取り組みの一例をご紹介します。

<http://www.mol.co.jp/csr/safety/ict/index.html>

講演 8 環境規制の動向

「船舶 MRV 規制の概要と日本海事協会関連サービスの紹介」



一般財団法人日本海事協会
船舶管理システム部
技師

渡邊 心平 氏



日本海事協会では、船舶からの CO2 排出量報告を求める EU MRV 並びに IMO DCS 規則に関する認証サービスと、各社の規制適合をサポートするソフトウェア「ClassNK MRV Portal」を提供している。本講演では、規則及び認証の概要と、本ソフトウェアによる本船レポート管理から認証取得までの方法を紹介します。

<http://www.classnk.or.jp/hp/ja/authentication/eumrv/>



クロージング
Closing

株式会社商船三井 技術革新本部 スマート SHIPPING 推進部 部長 藤井 仁 氏